

インバウンドの「変化の兆し」をいち早く
都道府県別訪日外客数と訪問率
月次指標の早期推計：9月レポート

野村亮輔（副主任研究員）
稲田義久（APIR 研究統括兼数量経済分析センター長）
松林洋一（APIR 上席研究員）
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail: nomura-r@apir.or.jp

ポイント

● 10月発表データのレビュー：JNTO 訪日外客数

▶ JNTO 訪日外客統計によれば(図 1 及び表 4)、9月の訪日外客総数(推計値)は**287万2,200人**となり、**同月の過去最高値を更新した**(前年同月比+31.5%)。また、**出国日本人数は121万2,600人**となり、**3カ月連続で100万人超の水準**となった(同+20.7%)。ただし、**19年同月比でみれば-30.8%**と、**依然コロナ禍前の水準を下回っている**。結果、7-9月期の訪日外客数は**909万7,802人**となり(前年同期比+36.6%)、**2四半期連続で900万人超の水準**となった(4-6月期:922万3,939人)。また、出国日本人数は**369万8,550人**であった(同+19.4%)。夏季休暇による海外旅行需要増加の影響もあり、**2四半期ぶりに300万人超の水準**となった(4-6月期:276万704人)。

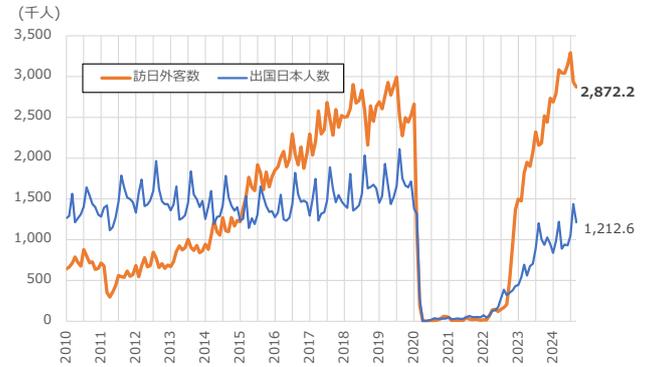
▶ 訪日外客数のトップ5を国・地域別にみると(図2及び表4)、**9月は韓国が65万6,700人**(前年同月比+15.1%)で最多であった。次いで中国が**65万2,300人**(同+100.3%)、台湾が**47万600人**(同+22.2%)、米国が**19万1,900人**(同+22.5%)、香港が**17万200人**(同+12.6%)と続く。

▶ 目的別訪日外客総数(暫定値)をみれば(図3及び表5)、**7月は329万2,602人**であった(前年同月比+41.9%)。うち、**観光客は305万5,187人**となり、**初めて300万人を超えた**(同+44.9%)。また、**商用客は9万6,045人**(同+0.4%)、**その他客は14万1,370人**(同+21.2%)であった。

▶ 観光客のTOP5を国・地域別にみれば(表5)、**7月は韓国が73万371人**(前年同月比+21.1%)と最多であった。次いで中国が**71万2,606人**(同+174.3%)、台湾が**55万8,802人**(同+35.6%)、香港が**27万5,751人**(同+29.0%)、米国が**23万6,813人**(同+28.5%)と続く。なお、7月は**香港とメキシコが単月として過去最高値**となった。

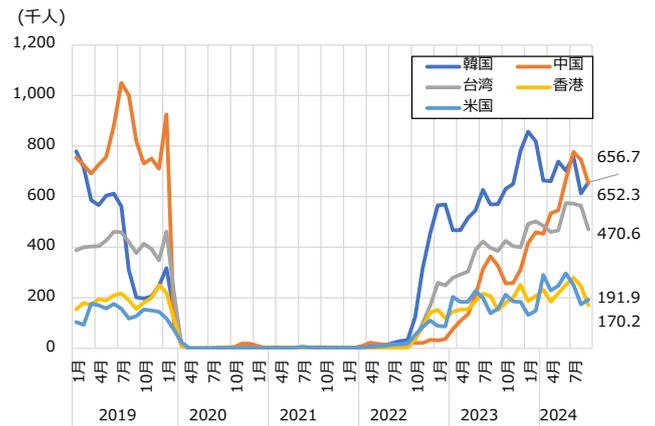
▶ 国土交通省が公表した**2024年冬期国際定期便のスケジュール**(24年10月27日~25年3月29日)によれば、国際旅客定期便は**5,178便**と19年同期(5,219便)とほぼ同水準まで回復した。うち、訪日旅行需要の高まりもあり、**韓国路線は1,291便**(19年比+66%)と**最も多い**。次いで、中国路線が**1,062便**(同-24%)、台湾路線が**606便**(同-5%)となっており、コロナ禍前を着実に回復しつつある。このため、11月以降の訪日外客数については**アジア方面の国際旅客便の回復もあり、引き続き堅調に推移すると見込まれよう**。

図1 訪日外客数及び出国日本人数の推移



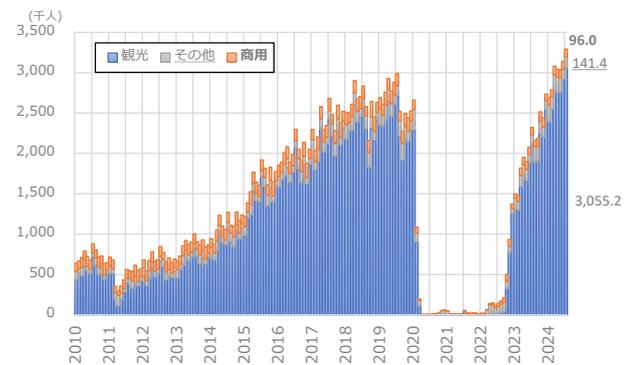
出所:日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」より筆者作成
注) 2022年まで確定値。23年、24年1-7月は暫定値、24年8-9月は推計値

図2 上位5カ国・地域別訪日外客数の推移



出所:日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」より筆者作成。

図3 目的別訪日外客数推移



出所:日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」より筆者作成
注) 目的別訪日外客数については訪日外客数(推計値)から2カ月遅れて発表される。「観光客」とは、短期滞在の入国者から「商用客」を引いた入国外国人で、親族友人訪問を含んでいる。「その他客」とは、観光、商用目的を除く入国外国人で、留学、研修、外交・公用などが含まれる。

*なお、観光庁「訪日外国人消費動向調査」の訪問率のデータが2023年9月から公表が再開された。このため、中断していた訪問率の月次推計についてはデータの蓄積を待って今後再開する予定である。

トピックス 1

●9月関西の財貨・サービス貿易及び8月のサービス産業動向

▶ 関西9月の輸出額は前年同月比-3.0%と5カ月ぶりの減少に転じた(前月:同+4.0%)。一方、輸入額は同+4.7%と6カ月連続の増加(前月:同+4.1%)。関西の貿易収支は+1,960億円と8カ月連続の黒字だが(図4)、輸出が減少に転じ、輸入が増加した結果、黒字幅は同-39.7%縮小した(前月:同+3.3%)。結果、7-9月期の貿易収支は+4,615億円と8四半期連続の黒字だが、黒字幅は前年同期比-30.9%縮小した(4-6月期:同-0.7%)

▶ 対中貿易動向をみると(図5)、関西9月の対中輸出は前年同月比-4.0%と7カ月ぶりに減少した(前月:同+1.1%)。輸出減に寄与したのは鉱物性燃料や電気回路等の機器等であった。また、対中輸入は同-2.4%と2カ月連続の減少(前月:同-9.2%)。輸入減に寄与したのは衣類及び同付属品やがん具及び遊戯用具等であった。結果、7-9月期の対中輸出は前年同期比+2.0%と3四半期連続で、対中輸入は同+1.6%と2四半期連続でいずれも増加。ただし、輸出入ともに伸びは4-6月期(輸出:同+6.1%、輸入:同+6.2%)から減速した。

▶ 9月の関西国際空港(以下、関空)への訪日外客数は73万8,390人となり(前月:76万2,632人)、9月としては過去最高値を更新した(図6)。前年同月比+24.8%と前月(同+28.9%)から増加幅は幾分縮小したものの、依然2桁の伸びが続いており、関空への訪日外客数は好調を維持。また、日本人出国者数は22万8,387人であった(同月+28.7%)。なお、19年同月比では-32.3%と3カ月連続で減少幅は縮小したものの、依然コロナ禍前の水準は回復できていない。7-9月期をみれば、訪日外客数は233万2,057人で、4四半期連続で200万人超の水準となった(前年同期比+30.7%)。また、日本人出国者数は69万7,620人(同+27.7%)と、アウトバウンド需要は緩やかに増加している(4-6月期:50万5,681人)。

▶ 8月のサービス業の活動は一進一退の動きが続く(図7)。サービス業の生産活動を示す第3次産業活動指数(季節調整済み:2015年平均=100)をみれば、8月は102.7で前月比-1.1%低下し、2カ月ぶりのマイナスとなった(前月:同+2.2%)。また、対面型サービス業指数*は98.2で同-0.5%低下し、3カ月ぶりのマイナス(前月:同+0.7%)。うち、運輸業(同-3.8%、3カ月ぶり)が低下に寄与。

▶ 観光関連指数**(2015年平均=100)は、94.7と前月比+1.2%上昇し、5カ月連続のプラス(前月:同+0.0%)。うち、飲食店、飲食サービス業(同+6.3%、2カ月ぶり)、宿泊業(同+3.0%、2カ月ぶり)等が上昇に寄与した。

*対面型サービス業は、運輸業、宿泊業、飲食店、飲食サービス業、その他の生活関連サービス業及び娯楽業を指す。

**観光関連指数は第3次産業活動指数のうち、観光庁「旅行・観光サテライト勘定」の分類に対応する、鉄道旅客運送業、道路旅客運送業、水運旅客運送業、航空旅客運送業、旅客運送業、その他のレンタル、自動車賃貸業、宿泊業、飲食店、飲食サービス業、旅行業、映画館、劇場・興行団の各指数の加重平均。

図4 関西 対世界貿易の推移

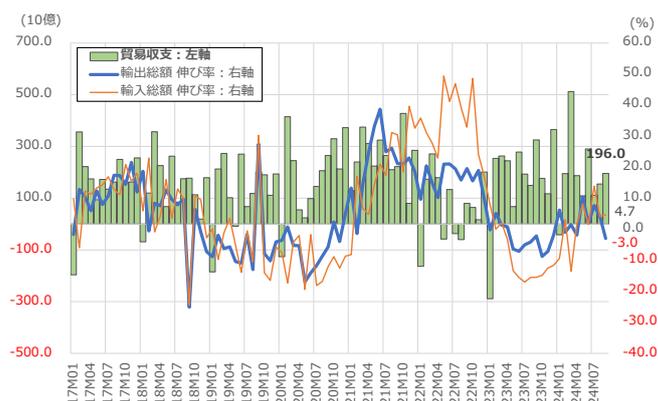
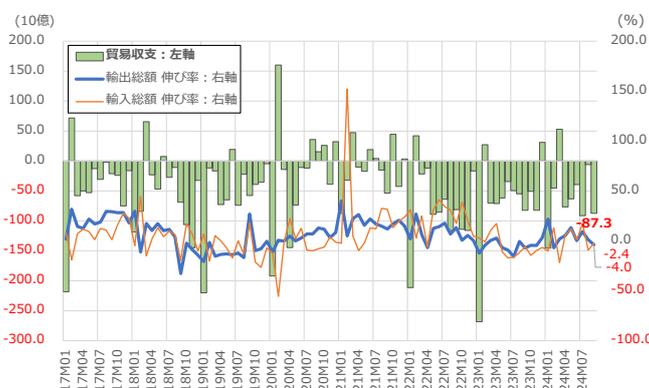
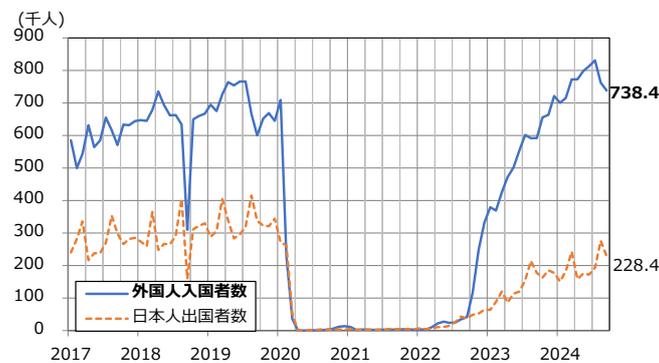


図5 関西 対中貿易の推移



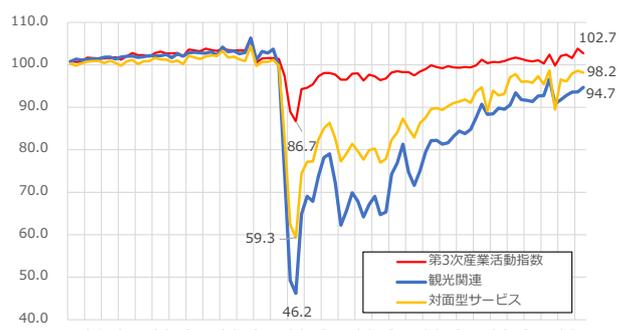
出所:「大阪税関貿易速報資料:近畿圏」より筆者作成

図6 関西国際空港 訪日外客入国者数推移



出所:出入国管理統計より筆者作成。2024年9月値は速報値

図7 観光関連 対面型サービス 第3次産業:2015年=100



出所:経済産業省「第3次産業活動指数」より筆者作成

トピックス 2

● 7月延べ宿泊者数の動向：関西 2府 8県

▶観光庁によれば、7月の関西 2府 8県の延べ宿泊者数(全体)は**11,607.8 千人泊**であった(表 1)。前年同月比では+11.7%と前月(同+11.6%)からほぼ横ばいとなった。

▶日本人延べ宿泊者数は**7,360.8 千人泊**となった(表 1 及び図 8)。前年同月比+1.6%と**3 カ月ぶりに増加した**(前月：同-0.7%)。府県別に延べ宿泊者数を降順にみれば、大阪府 2,484.3 千人泊、兵庫県 1,266.7 千人泊、京都府 1,202.0 千人泊、三重県 731.4 千人泊、和歌山県 381.4 千人泊、滋賀県 373.1 千人泊、福井県 319.2 千人泊、鳥取県 230.4 千人泊、奈良県 190.3 千人泊、徳島県 182.0 千人泊であった。前年同月比でみると、**三重県**が同+36.6%(4 カ月連続)、**兵庫県**が同+10.1%(2 カ月連続)といずれも増加しており、日本人延べ宿泊者の増加に寄与した。なお、**京都府**は同-16.3%と**14 カ月連続で減少**しており、**好調な外国人宿泊者数に比して日本人宿泊者数の弱さが目立つ**。

▶外国人延べ宿泊者数は**4,247.1 千人泊**となった(表 1 及び図 9)。前年同月比+34.8%と**7 カ月連続で 2 桁の伸び**が続いており、好調を維持している(前月：同+51.2%)。府県別に延べ宿泊者数を降順にみれば、大阪府 2,488.3 千人泊、京都府 1,449.8 千人泊、兵庫県 129.9 千人泊、和歌山県 68.5 千人泊、奈良県 33.5 千人泊、滋賀県 22.0 千人泊、三重県 19.1 千人泊、徳島県 17.0 千人泊、鳥取県 13.7 千人泊、福井県 5.5 千人泊であった。なお、大阪府の延べ宿泊者数は過去最高値を更新した。前年同月比をみれば、**大阪府(同+37.8%)や京都府(同+29.8%)が大幅に伸び、全体の増加に寄与した**。

▶関西 2府 8県延べ宿泊者を居住地別でみると(図 10)、県内の延べ宿泊者数は**1,532.3 千人泊**、県外は**9,577.9 千人泊**であった。前年同月比をみれば、県内は同+0.4%と**16 カ月ぶりのプラスに転じ**(前月：同-3.5%)、県外(含む外国人)は同+13.4%と**33 カ月連続のプラス**となった(前月：同+15.7%)。

図 8 府県別日本人延べ宿泊者数 推移

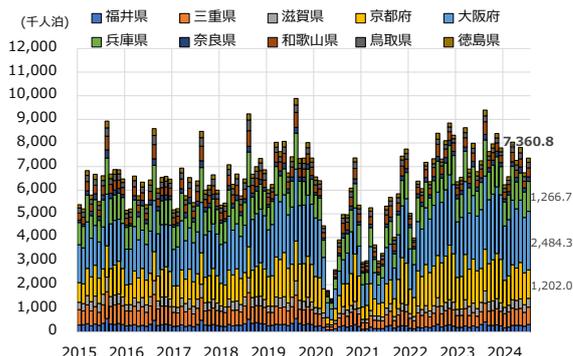


図 9 府県別外国人延べ宿泊者数の推移

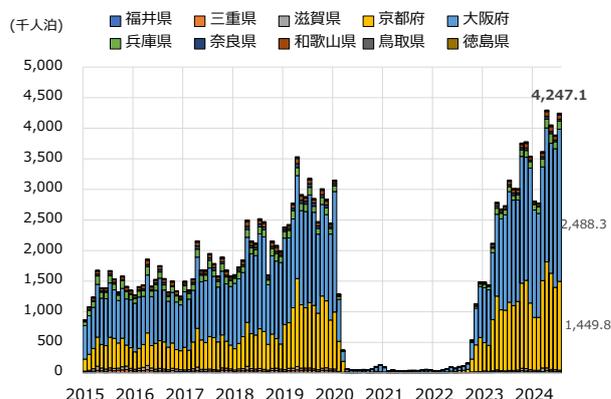
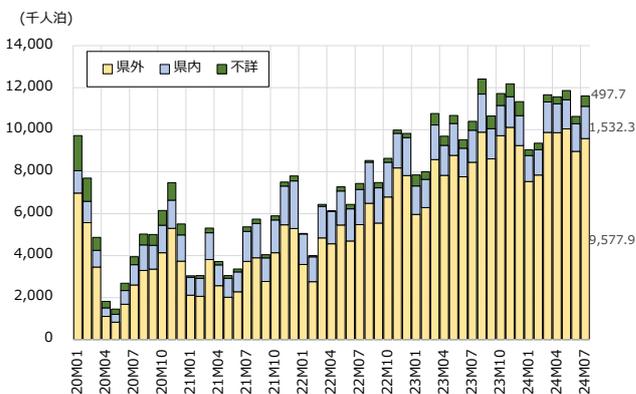


図 10 関西 居住地別延べ宿泊者比率の推移



注) 県外の宿泊者には外国人宿泊者も含まれる。

表 1 関西 延べ宿泊者数伸び率：7月

2024年7月	総数			日本人			外国人		
	延べ宿泊者数： (千人泊)	前年比伸び率： 当月(%)	前年比伸び率： 前月(%)	延べ宿泊者数： (千人泊)	前年比伸び率： 当月(%)	前年比伸び率： 前月(%)	延べ宿泊者数： (千人泊)	前年比伸び率： 当月(%)	前年比伸び率： 前月(%)
福井県	324.6	-0.2	21.1	319.2	-0.6	20.2	5.5	32.8	71.8
三重県	750.6	36.5	26.3	731.4	36.6	25.9	19.1	32.5	37.8
滋賀県	395.1	-5.9	3.1	373.1	-6.3	-0.4	22.0	0.5	73.6
京都府	2,651.8	3.9	4.1	1,202.0	-16.3	-15.5	1,449.8	29.8	35.6
大阪府	4,972.6	15.8	18.9	2,484.3	-0.2	1.2	2,488.3	37.8	45.2
兵庫県	1,396.5	13.6	5.8	1,266.7	10.1	2.5	129.9	63.9	49.0
奈良県	223.8	-1.6	2.9	190.3	-1.3	0.5	33.5	-3.2	22.2
和歌山県	449.9	4.1	5.4	381.4	1.0	-2.3	68.5	25.1	65.0
鳥取県	244.1	34.5	8.3	230.4	32.3	5.3	13.7	89.1	120.9
徳島県	199.0	9.8	-8.2	182.0	7.1	-10.1	17.0	52.2	33.3
関西2府4県	10,089.6	10.2	11.1	5,897.7	-2.4	-3.5	4,191.9	34.7	42.1
関西2府8県	11,607.8	11.7	11.6	7,360.8	1.6	-0.7	4,247.1	34.8	42.2
全国	56,662.4	4.1	6.3	41,963.0	-3.3	-2.4	14,699.4	33.0	40.7

出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」(図 8～10 及び表 1)より筆者作成

トピックス 3

● 2024年7-9月期訪日外国人消費の動向

▶観光庁によれば、**2024年7-9月期の訪日外国人消費額**(速報、全目的ベース)は**1兆9,480億円**となった(図11)(4-6月期:2兆1,370億円)。**前年同期比+41.1%**と**24年に入っても、3四半期連続で2桁の伸び**となっている。夏季休暇に伴う訪日旅行需要の増加に加え、1人当たりの旅行支出が増加した影響が表れた。なお、**1-9月期累計の消費額は5兆8,582億円**と、**過去最高値であった23年通年(5兆3,065億円)を上回った**。

▶訪日外国人消費のトップ5を国・地域別にみれば(図12)、**中国**が5,177億円(前年同期比+87.2%)と**最多**であった。次いで、台湾が2,844億円(同+35.8%)、韓国が2,285億円(同+19.0%)、米国が1,860億円(同+28.8%)、香港が1,677億円(同+27.2%)と続く。

▶**一般客1人1泊当たり旅行支出**(全目的)は2万3,410円となり、前年同期比+18.2%増加した(4-6月期:同+30.6%)。国・地域別にみれば(表2)、イタリアが3万2,687円(同+8.1%)と最も高い。次いで、香港が3万2,027円(同+4.6%)、中国が3万601円(同+38.3%)、スペインが2万9,430円(同+41.4%)、台湾が2万5,818円(同+23.7%)となっている。

▶7-9月期の1人1泊当たり旅行支出を費目別で見れば(表3)、宿泊費が7,944円(同+17.5%)と最も多く、次いで買物代が6,636円(同+28.2%)、飲食費が5,167円(同+14.6%)、交通費2,559円(同+14.1%)、娯楽等サービス費が1,100円(同-0.6%)と続いている。7-9月期は、**買物代が大幅増加したことに加え、宿泊費が着実に増加しているのが特徴的**である。なお、平均泊数は9.5泊と、前年同期差-1.0泊減少した。

*トピックス3は四半期ごとの掲載である。

**「全目的」とは、観光・レジャー目的以外に、業務、留学、親族・知人訪問等の目的の旅行者を含む。ただし、1年未満の滞在者が対象である。

図11 訪日外国人消費額の推移

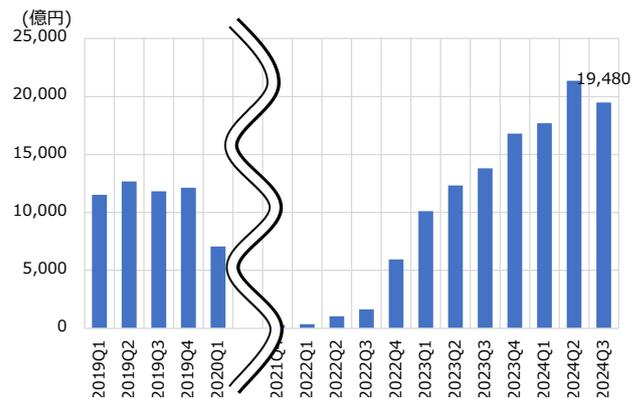
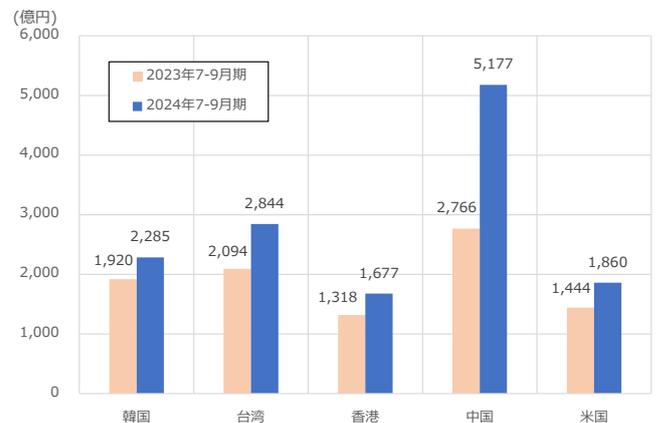


図12 訪日外国人消費額の上位5か国・地域：2024年7-9月期



(注)「訪日外国人」には、観光・レジャー目的に加えビジネス目的や親族・知人訪問目的などで日本を訪れた外国人が含まれる。日本に居住している外国人は含まれない。「クルーズ客」は船舶観光上陸許可者。2023年までは確報、24年7-9月期は速報。

表2 国・地域別一般客1人当たり旅行支出(全目的)：2024年7-9月期

国・地域	全体	韓国	台湾	香港	中国	タイ	シンガポール	マレーシア	インドネシア	フィリピン	ベトナム
2023年7-9月期(円/人)	209,228	108,680	182,131	229,696	278,771	185,208	275,219	183,774	200,049	179,628	194,219
2024年7-9月期(円/人)	223,195	112,877	192,159	242,008	267,088	186,967	266,018	208,964	218,057	167,322	202,502
前年同期比(%)	+6.7	+3.9	+5.5	+5.4	-4.2	+0.9	-3.3	+13.7	+9.0	-6.9	+4.3
国・地域	インド	英国	ドイツ	フランス	イタリア	スペイン	ロシア	米国	カナダ	オーストラリア	その他
2023年7-9月期(円/人)	226,200	287,026	275,506	361,321	359,919	347,638	-	292,402	253,482	318,090	306,292
2024年7-9月期(円/人)	238,139	331,812	326,843	333,857	400,275	382,904	351,620	302,087	268,449	328,074	336,169
前年同期比(%)	+5.3	+15.6	+18.6	-7.6	+11.2	+10.1	-	+3.3	+5.9	+3.1	+9.8

表3 一般客1人1泊当たり旅行支出(全目的)：2024年7-9月期

1人1泊当たり旅行支出	総額	費目別						平均泊数(泊)
		宿泊費	飲食費	交通費	娯楽等サービス費	買物代	その他	
2023年7-9月期(円/人)	19,807	6,763	4,509	2,243	1,107	5,177	8	10.6
2024年7-9月期(円/人)	23,410	7,944	5,167	2,559	1,100	6,636	3	9.5
前年同期比(%)	+18.2	+17.5	+14.6	+14.1	-0.6	+28.2	-56.6	-1.0

(注) 2023年7-9月期のロシアについては全国籍・地域の集計対象には含んでいるが、十分な回答数が確保できておらず、ロシア単体での公表は行っていないため、“-”としている。

表4 2024年9月 訪日外客数 (JNTO 推計値) (前年同月比)

国・地域	総数 Total			総数 Total		
	2023年	2024年	伸率(%)	2023年	2024年	伸率(%)
	9月	9月		1-9月	1-9月	
総数	2,184,442	2,872,200	31.5	17,374,722	26,880,200	54.7
総数(中国除く)	1,858,797	2,219,900	19.4	15,776,753	21,632,700	37.1
韓国	570,369	656,700	15.1	4,894,767	6,468,600	32.2
中国	325,645	652,300	100.3	1,597,969	5,247,500	228.4
台湾	385,259	470,600	22.2	2,974,579	4,585,800	54.2
香港	151,137	170,200	12.6	1,483,578	1,972,000	32.9
タイ	50,492	45,500	-9.9	631,070	752,000	19.2
シンガポール	38,105	37,400	-1.9	336,404	390,300	16.0
マレーシア	27,543	39,900	44.9	258,358	318,200	23.2
インドネシア	32,354	35,100	8.5	283,291	350,600	23.8
フィリピン	42,763	46,600	9.0	410,243	542,800	32.3
ベトナム	43,004	45,800	6.5	439,620	479,800	9.1
インド	14,102	17,900	26.9	119,516	170,800	42.9
豪州	64,005	85,700	33.9	402,005	637,300	58.5
米国	156,637	191,900	22.5	1,466,052	1,960,100	33.7
カナダ	39,822	50,000	25.6	298,733	417,300	39.7
メキシコ	10,131	15,000	48.1	63,261	107,100	69.3
英国	29,702	37,400	25.9	230,665	318,200	37.9
フランス	22,034	30,700	39.3	201,166	283,800	41.1
ドイツ	26,283	37,100	41.2	172,078	241,500	40.3
イタリア	14,605	19,600	34.2	112,051	168,800	50.6
スペイン	13,192	19,000	44.0	82,990	129,500	56.0
ロシア	4,294	10,200	137.5	27,070	63,900	136.1
北欧地域	9,848	12,700	29.0	81,867	109,100	33.3
中東地域	13,549	14,200	4.8	84,144	113,700	35.1
その他	99,567	130,700	31.3	723,245	1,051,500	45.4

表5 2024年7月 目的別訪日外客数 (JNTO 暫定値) (前年同月比)

国・地域	総数 Total			観光客 Tourism			商用客 Business			その他客 Others		
	2023年	2024年	伸率(%)	2023年	2024年	伸率(%)	2023年	2024年	伸率(%)	2023年	2024年	伸率(%)
	7月	7月		7月	7月		7月	7月		7月		
総数	2,320,694	3,292,602	41.9	2,108,438	3,055,187	44.9	95,646	96,045	0.4	116,610	141,370	21.2
韓国	626,830	757,679	20.9	603,122	730,371	21.1	14,517	15,157	4.4	9,191	12,151	32.2
中国	313,328	776,520	147.8	259,775	712,606	174.3	24,375	25,367	4.1	29,178	38,547	32.1
台湾	422,356	571,698	35.4	412,027	558,802	35.6	6,438	7,524	16.9	3,891	5,372	38.1
香港	216,413	279,069	29.0	213,712	275,751	29.0	1,655	1,881	13.7	1,046	1,437	37.4
タイ	49,613	53,494	7.8	45,754	49,406	8.0	1,890	2,020	6.9	1,969	2,068	5.0
シンガポール	25,320	28,115	11.0	23,265	25,758	10.7	1,743	1,974	13.3	312	383	22.8
マレーシア	17,357	19,260	11.0	15,515	17,353	11.8	1,220	1,174	-3.8	622	733	17.8
インドネシア	28,489	29,571	3.8	18,933	19,564	3.3	1,487	1,340	-9.9	8,069	8,667	7.4
フィリピン	51,711	55,466	7.3	43,195	45,391	5.1	3,309	4,363	31.9	5,207	5,712	9.7
ベトナム	44,773	49,733	11.1	17,302	19,474	12.6	2,858	3,098	8.4	24,613	27,161	10.4
インド	13,150	14,941	13.6	6,571	7,782	18.4	4,131	4,315	4.5	2,448	2,844	16.2
豪州	35,650	48,616	36.4	32,903	45,916	39.5	1,904	1,696	-10.9	843	1,004	19.1
米国	198,845	251,218	26.3	184,336	236,813	28.5	9,719	9,064	-6.7	4,790	5,341	11.5
カナダ	38,786	48,158	24.2	37,415	46,740	24.9	786	740	-5.9	585	678	15.9
メキシコ	9,986	16,011	60.3	9,606	15,521	61.6	232	280	20.7	148	210	41.9
英国	26,965	32,910	22.0	23,572	29,560	25.4	2,156	1,940	-10.0	1,237	1,410	14.0
フランス	31,132	37,353	20.0	28,091	34,434	22.6	1,835	1,610	-12.3	1,206	1,309	8.5
ドイツ	19,081	22,685	18.9	15,781	19,666	24.6	2,548	2,151	-15.6	752	868	15.4
イタリア	13,969	18,370	31.5	12,341	17,050	38.2	1,240	865	-30.2	388	455	17.3
ロシア	3,239	5,675	75.2	2,186	4,604	110.6	649	623	-4.0	404	448	10.9
スペイン	12,985	18,687	43.9	12,208	17,864	46.3	427	410	-4.0	350	413	18.0
中東地域	9,937	12,826	29.1	8,576	11,786	37.4	868	634	-27.0	493	406	-17.6
その他	110,779	144,547	30.5	82,252	112,975	37.4	9,659	7,819	-19.0	18,868	23,753	25.9

注) 目的別訪日外客数の定義については、図3注参照。

出所: 日本政府観光局(JNTO)、2024年10月23日付より筆者加工